



淡水域における水産生物などの増養殖を中心に据えた水産系研究機関です。県内の内水面漁業、養殖業の維持発展を目的に、増養殖技術開発や技術相談、河川湖沼の環境保全などの調査・研究を行っています。

### ◎こんな分野に対応しています

- 1 淡水魚などの養殖技術
- 2 淡水魚などの種苗生産技術
- 3 魚病の診断や防疫対策技術
- 4 河川湖沼の環境、魚類調査
- 5 サケ・サクラマスのか化放流技術
- 6 ヤマトシジミの増殖技術や資源管理
- 7 水産生物の増殖技術

### ◎こんな施設・設備などがあります

- 1 飼育水の調温施設  
(8~12℃の水温で卵や稚魚を飼育する設備)
- 2 光周期調整飼育施設  
(魚類の成熟時期調整用)

◎技術相談、技術研修など御相談ください。名前の分からない魚の鑑定もいたします。

### ◎所在地とアクセス



### ◎研究部と主な業務

#### 養殖技術部

ニジマスなどのマス類を対象にバイオテクノロジー技術の応用により系統作出を行い、新たな養殖対象魚種を開発しています。

健康で安全な養殖魚の生産を図るため、県内養殖者を対象に、養殖衛生管理及び疾病対策に関する技術・知識の普及、指導を行っています



ニジマス採卵



バイオテク技術で作出した全雌三倍体魚

#### 調査研究部

サケやサクラマスの資源を増大させるため、か化放流に関する技術指導や河川での放流効果調査などを行っています。

また、本県内水面漁業の主要資源であるヤマトシジミの安定生産を図るため、資源動向の把握や増殖手法についての指導を行っています。



河川での調査



屋外飼育施設

## ◎主な研究成果

### ◆<sup>くれない</sup>青い森紅サーモンの開発

- 【目的】市場競争力の強い、青森県生まれのサーモンを開発する。
- 【結果】淡水で養殖し、2~4kgサイズで出荷できる大型ニジマスを開発し、種卵を県内養殖業者に供給した。令和2年から食用販売を開始した。
- 【今後】養殖業者と出荷量を増やし、青森県の地域特産品として定着させる。



青い森紅サーモン (全長64cm 体重4.3kg)

### ◆サケの回帰資源を支えるふ化場指導

- 【目的】資源の増大及び回帰率向上を図る。
- 【結果】親魚捕獲尾数・ふ化場の増殖実態を把握した。
- 【今後】稚魚の適正飼育管理と適期・適サイズでの放流を普及する。



サケ採卵作業

### ◆ヒメマス漁業者と漁協の経営基盤の強化

- 【目的】資源状態と生態に関するデータ収集と解析を行う。
- 【結果】採捕魚の年齢組成により、資源状態を把握した。
- 【今後】指導参考資料として漁業関係者に普及する。



ヒメマス刺網調査

### ◆サクラマスの回帰資源増大対策

- 【目的】放流効果の把握と増殖状況の向上を図る。
- 【結果】放流魚の生産状況や移動分布、早期放流効果を把握した。
- 【今後】指導参考資料としてふ化場関係者に普及する。



リボntag標識を施されたサクラマス養魚

### ◆養殖場等の魚病被害の軽減

- 【目的】養殖衛生管理、疾病対策に関する技術・知識の普及を行う。
- 【結果】魚病診断、防疫パトロールを行い、魚病被害の軽減に努めた。
- 【今後】指導参考資料として増養殖関係者に普及する。



魚病検査 (検鏡中)

### ◆ヤマトシジミの種苗生産技術開発

- 【目的】シジミの持続的漁業生産のための種苗生産技術を開発する。
- 【結果】閉鎖循環飼育で殻長1mmの種苗を量産する技術を開発した。
- 【今後】より生残率の高い大型種苗の生産手法を確立する。



閉鎖循環飼育システムと生産したシジミ種苗

## ◎その他の試験・研究・調査

- ◆ニホンウナギの資源回復のための生態調査
- ◆マス類の量産技術開発試験
- ◆コイヘルパスウィルス病モニタリング調査
- ◆カワウによる内水面漁業被害を把握するための調査
- ◆ヤマトシジミ、ワカサギ、シラウオの生物調査
- ◆小川原湖と十三湖の環境モニタリング調査